

令和2年度 盛岡大学附属高校 学校自己評価及び学校関係者評価書

1. 今年度の重点目標・具体的な取り組み

学校経営方針	キリスト教主義に基づいて教育を行い、愛と奉仕の精神を体した人格を形成する。
今年度学校重点目標	1) 生徒一人ひとりを大切に、基本を重視し、基礎を確実に身に付ける、きめ細やかな指導を行う。 2) 県内唯一の大学附属高等学校として、「知性、感性、体力にバランスのとれた教養人の育成」を目指す。
今年度の具体的な取り組み	1) 入学者の定員確保に努める。 2) 教育課程の改善を検討、実施する。 3) 新学習指導要領に対応した教育改善の検討を進める。 4) 高大連携を充実させるとともに、高大接続改革に備える。 5) 本校独自の特色ある教育活動に取り組む。 6) コンプライアンスの徹底を図る。 7) 生徒の安全面等環境に配慮した施設設備の改善の改善を検討する。 (教室等のICT化並びに冷房設備の完備、シューズロッカー室の床・ドア及び通路の修理、駐車場のアスファルトの修理など)

2. 今年度の学校自己評価の結果

	重点目標	具体的方策	自己評価		関係者評価	
			達成状況	改善策	達成状況	改善策
(1) 学校経営	150名の入学定員を確保し、更に165名の入学者を目標として活動する。	1 専願推薦入学者130～140名、一般入学志願者400名以上を確保する。	A	盛岡地区近郊の中学3年生が昨年度より285名減のなかにあつて、入試相談会の参加者は昨年度を大きく上回った。そこから判断すると、入試は1月ではあるが目標達成に近い数字は期待できると考える。地元北陵中の生徒の受験予定者数が減少していることが不安要素である。北陵中学校への訪問を増やし、減少した要因を見極める必要がある。	A	A
学校関係者評価委員の意見		安定した定員確保に向けた活動がなされている。次年度も継続していただきたい。				
(2) 総務・渉外	PTA・教育後援会・同窓会活動の活性化を図り、学習活動環境をより充実させる。	1 PTA・教育後援会・同窓会について例年行っている活動を継続しながら会の活性化を図る。	B	コロナ禍の中で総会・学年行事など多くの活動ができなかった。その中でもオンラインでの講演を取り入れたPTA研修を行ったり、活動を模索した。更にできる活動を模索したい。	A	A
		2 生徒の学習環境の確保に努め、避難訓練、防災教育の充実を図る。	B	避難訓練・防災復興講話は来年も引き続き実施したい。県の防災復興アドバイザー派遣事業に3年連続でお願いし実施したので、来年度は別の講師を探したい。	A	A
学校関係者評価委員の意見		コロナ禍で活動が縮小する中において、PTA研修は充実した内容であった。				
(3) 学習指導	自ら学ぶ意欲を育て、学習する習慣を身につけさせる。	1 教科の特性に応じて「家庭学習課題」を出し、家庭学習習慣の育成に努める。	B	スタディサプリを全校で導入し、教員研修を2回行った。特に1学年で活発に活用され家庭学習習慣は例年より定着している。	A	B
		2 観点別評価を実施し、生徒を多様な視点から評価することで学習意欲を喚起する。	B	観点別評価を行うために、各学期に教科会議を実施した。欠点科目取得者は全体の6～7%となっている。70%強の生徒は、補修や課題に取り組み再考査を合格している。	B	A
学校関係者評価委員の意見		家庭学習は定着していると評価しているが、生徒の授業アンケート結果から見ると、教員と生徒側との温度差があるようにも取れる。「例年との比較」の分野において、少々全体像が分かりかねる部分もあった。学校から指示された課題によって生徒の家庭における学習が定着してきたことは評価できるが、生徒が主体的に家庭学習に取り組む指導の工夫に今後も努めてほしい。				

	重点目標		自己評価		関係者評価	
			達成状況	改善策	達成状況	改善策
(4) 生徒指導	基本的な生活習慣の確立。問題行動、いじめ等のない環境づくり及び適切な対応と指導。	1 諸届用紙及び学校生活アンケートの見直しと適切な活用を努める。	A	担任、学年との連携で、全生徒のアンケート確認及び対応を適切に実施した。継続したい。	A	A
		2 「暑さ対策・寒さ対策」等、生徒の体調、健康面に留意する。	A	プリントの配布、全校集会での指導等とおして、生徒の健康管理に努めた。継続したい。	A	A
		3 規程を遵守させる。	A	問題行動等の対応及び感染症対策に伴うガイドラインの遵守等、細心の注意を払い対応した。	A	A
学校関係者評価委員の意見		暑さ対策を求めるアンケート集計結果が出ているので、早急な対応が望まれる。次年度から各教室にエアコンが配置されると聞き安心した。				
(5) 保健課	生涯を通じて、健康で安全な生活を送るための基礎を培い、たくましく生きていけるように実践能力を育成する。	1 「健康生活5か条」（睡眠を重点に、その他、スマホ等の使用、三度の食事について）を意識して生活するよう指導する。	B	保健便りや集会時などを利用して指導した。スマホ等の使用については、学習にも使用されるようになり、長時間使用による健康被害が心配である。「健康生活5か条」のスマホ使用の項目は現状に合わなくなっているので、検討が必要である。	B	B
		2 心身の悩みや生活の乱れ等による来室者に対し、面談したり改善策と一緒に考えたりし、自分で解決していけるよう支援する。	B	新型コロナウイルス感染症の関係で、体調不良者は早退の対応をとった。精神的なことが原因で体調不良を訴えている可能性があっても、絶対コロナではないと言い切れないため、換気をしたり距離をとったりしながら指導や面談をした。しかし、三密回避でゆっくり面談・指導は難しく、例年通りとはいかなかった。感染対策をしながら対応したい。	B	B
学校関係者評価委員の意見		新型コロナウイルス感染症対策については、未知の部分が多く大変だと思うが「しなければならない」ものだ。今後も継続して適切な対応をお願いしたい。				
(6) 相談課	様々な問題から教室に入れない生徒の学習指導・生活指導・進路指導を実施し、安心感のある生活が送られるようサポートする。	1 サポート室登校の生徒に対し、効果的な学習指導や進路指導の実施を継続する。	B	不適応生徒指導員と教科担任による授業の実施。12月現在6名在中、中には5時間程度教室復帰しているのもで更なる担任との連携が必要。	B	B
		2 サポート室の利用者に寄り添い、個々の悩みに対して適切な対応をとる。	B	不適応生徒指導員と養護教諭の連携のもと早期に生徒の相談に対応ができていたので継続する。	A	A
		3 スクールカウンセラーによる月2回のカウンセリングを通し、生徒・保護者・教員の心の安定に寄与する。	A	カウンセリングは現在、生徒53回、保護者1回、教員1回実施、心の安定や悩みの解決につながっているので、継続する。	A	A
学校関係者評価委員の意見		サポートを必要とする生徒をはじめとする心身に不安を抱えた生徒への支援を、適切にきめ細やかに対応していると思う。これからも継続してほしい。				

	重点目標	具体的方策	自己評価		関係者評価	
			達成状況	改善策	達成状況	改善策
(7)進路指導	自分を知り、自分を活かす進路の発見、進路目標を達成する基礎的な学力、社会性・自己管理能力を学校生活の全場面を通じて育成する。	1 盛岡大学・同短期大学部をはじめとする上級学校への進学を希望に応じて達成する。	B	希望する上級学校への進学はある程度進んだ。経済的支援制度についての研究が必要である。	B	A
		2 進学コース、教育系大学進学コースにおいても大学入試共通テストを受験させ、特進コースと合わせて、国公立大学希望者の4割の合格を目標とする。	B	総合型、学校長推薦型入試の研究と早期対策や、希望等に応じた教育課程の研究も必要である。	B	A
		3 基礎学力の定着を目的として、進路マップなどの取組みを実施する。その分析も行う。	B	日常の学習（朝読書、探究も含め）と、進路目標の達成との有機的なつながりを一層図る。	B	A
学校関係者評価委員の意見		基礎学力を上げ将来につながる「生きる力」を身に着けさせるよう、今後も対応をお願いしたい。進学、教育系大学進学コースに、盛岡大学、同短期大学部への進学目標の指標があってもよいのではないかな。				
(8)家庭・地域との連携	地域に信頼される開かれた学校づくりに取り組む。	1 生徒による地域行事やボランティア活動への参加を奨励し、地域との交流を、さらに図る。また、それらの活動内容を広く保護者等に知らせる。	B	コロナ禍で、多くのボランティア活動が中止になった。新たな活動を考え、実行すべきである。	B	A
		2 年2回の三者面談を中心に、家庭との連携を充実させた学校運営を心掛ける。	B	担任中心に努力は感じている。多様化する生徒に対応するため、更なる検討を期待する。	B	B
学校関係者評価委員の意見		コロナ禍の中で、今までどおりの活動ができなくなったが、状況を見ながらボランティア活動の充実に取り組んでほしい。				
(9)学校独自の活動	建学の精神に基づくキリスト教主義の理解を広める。	1 全校礼拝は全職員・全生徒が聖書・讃美歌を持参して出席する。	B	コロナ禍において讃美歌を歌わないなど新生活様式に基づきながらきちんと実施された。	A	A
		2 宗教委員による司会・会場準備と説教者の確保に努める。	B	生徒会の協力により整列指導、宗教委員の司会、野球部による会場設営などそれぞれが協力し実施された。	A	A
学校関係者評価委員の意見		学校の特色である宗教教育により、今後も生徒の心の豊かさを培っていただきたい。				